

元吉原小学校

No.9 令和4年2月4日

コミュニティ・スクール CS たいり

発行:CS事務局

小中一貫 学校教育目標 **人として「熱く 優しく たくましく」**
重点目標 元吉原小学校 **自分で みんなで さいごまで**

新たなウィルス株によるコロナ感染が収まらず、県内・市内も厳しい状況になっています。5年生の社会科見学や6年生の運営委員の子どもたちも参加して行う予定だった元吉原地区かるた準備会なども中止を余儀なくされています。今後もいろいろな場面での配慮や対策が必至ですが、学校の教育活動ができるだけ止めることなく、感染対策を万全に、令和3年度の地域・学校協働活動を最後まで進めていけたらと思っています。令和4年1月のCS活動の様子をお伝えします。

紹介します！ 元小 応援団



1月17日

4年生社会科「昔から今へと続くまちづくり」 図書ボランティアの皆さんと地域協力者の方々が協力して作成した 郷土学習教材 紙芝居「お阿字伝説」を披露しました！

昨年度3月から部会を6回ほど開き、図書ボランティアの保護者9名と地域協力者として、元吉原地区の歴史に詳しい梅原久司さん、鈴木允さん、イラストレーターの木内千乃さんの3名をお招きし、郷土学習教材の紙芝居「お阿字伝説」を制作しました。また、学校運営協議会委員の鈴木さん、渡邊さんも活動を見守ってくださいました。多くの皆様にご協力いただき、完成することができました。ありがとうございます。この活動は、4年生の社会科学習「昔から今へと続くまちづくり」の単元のはじめに、400年ほど前の元吉原地区の様子を知るきっかけとして活用してほしい、郷土の歴史や発展に尽くした人々の足跡への興味や関心を喚起してほしいという願いから生まれました。

当日は、体育館での4年生全員による社会科の授業の中で、披露しました。鈴木允さんの情感たっぷりの朗読に、子どもたちは400年前の元吉原にタイムスリップし、真剣な表情で紙芝居に聞き入っていました。



4年生の声

地域協力者の声

- ぼくは、お阿字伝説を聞いて、六王子神社が何でそんな名前なのかと、昔この場所で何が起きたのかがよく分かりました。
- なぜこんなに悲しい出来事があったのか、残念だと思いましたが、このことはこれからもつないでいきたいです。
- 仲間の死の悲しさが伝わってきて、すごかったです。
- お阿字伝説を作ってください、ありがとうございました。もう聞けないと思ったので、真剣に聞きました。お阿字が死にそうなときは、そわそわしました。お阿字が助かったのに、6人のみこが死んでしまい、かわいそうでした。7人ともやさしくてかわいいけれど、悲しいお話でした。
- 絵がとてもきれいでした。特に大蛇が本物みたいでした。話している人の声は上手ですごかったです。お阿字が助かったのに、6人のみこが死んでしまい、かわいそうでした。7人ともやさしくてかわいいけれど、悲しいお話でした。
- 昔の話が聞けてよかったです。ぼくたちのために練習してくれてありがとうございます。私も六王子神社や阿字神社に行ってみようと思いました。

<地域の歴史や紙芝居に詳しい鈴木允さんより>

伝説は、いつ、どこで、だれが、何をして、どうなったかを、当時の地域の自然環境や生活状況を含めて、大衆が口伝えをしたり、識字者がまとめたりし、後世の人々に「いましめ」(教訓や警戒)として伝えたものです。

4年生の子どもたちは、当日のインタビューで「先人の努力で僕らの今がある」と、的確に感想を述べてくれました。

現代は、危機管理や危険予知、弱者への思いやり、人権尊重などを世界中で問われる厳しい世の中です。これらのことを抱合するこの伝説を機に、子どもたち自らが明るく元気に未来を開拓してほしいと願っています。



鈴木 允

載せきれませんが、4年生の皆さんが、心に響く素敵な感想をたくさん寄せてくれました。

1月24日

～学習を広げ、つなげて～

4年生社会科「昔から今へと続くまちづくり」 梅原久司さんのお話を聞きました！

紙芝居「お阿字伝説」のお披露目の後、郷土の先人の治水事業や努力について、調べ学習を進めている4年生が、梅原さんから高橋勇吉さんや増田平四郎さんの話を伺い、学習を深めました。詳しい資料や分かりやすいお話がとても助けになりました。ありがとうございました。



紙芝居「お阿字伝説」の読み聞かせ 読み聞かせボランティアの皆さん、 図書委員の皆さん ありがとうございました！

1月27日
1月28日

4年生に披露した紙芝居「お阿字伝説」を木曜日朝の読み聞かせの時間に、ボランティアの皆さんが全学年に読んでくださいました。

また、その続きを図書委員の子どもたちが、ロング昼休みを活用して学年ごとに読み聞かせをしました。お兄さん、お姉さんの朗読に、低学年も真剣に耳をかたむけていました。郷土への興味や関心が高まることは、うれしいことです。



6年生 図画工作科 「卒業制作 フォトスタンド」

1月～2月

卒業まであと2か月余りとなった6年生は、卒業記念のフォトスタンド制作に取り掛かっています。今までは線彫りが主だった彫刻刃の学習でしたが、初めて浮彫りに挑戦しています。元中の美術講師をなさっている山本先生が、詳しく教えてくださり、みんなよりよい作品制作を目指して、真剣に取り組んでいます。



坂田菓子店より、丹切のプレゼント

コロナ感染拡大防止のために、2年間、地域の産業についての見学や学習ができなくなっている元小の子どもたちのことを思い、坂田菓子店さんが、全校児童に毘沙門天大祭の味、「丹切」をプレゼントしてくださいました。地域の名品、地域の味、地域の皆さんを思う坂田さんの温かいお心遣い、本当にありがとうございました。



2年生が、だるま電車を飾りました！

だるまと毘沙門さんは、切っても切れないご縁です。「富士だるまプロジェクト」の企画に2年生が参加し、「だるまのカラージュ」を制作しました。作品は、だるま電車内や岳鉄吉原駅の待合室にも飾られ、毘沙門天大祭に彩りを添えています。

- だるまの作り方が分かって、作ってみたいから、すごく楽しくて、もっと作りたくなりました。電車にも乗ったら、ととてもきれいでした。
- だるまを作るのは大変だったけど、がんばったよ。さむらいのようなだるまやはかせみたいになるだるまも作ったよ。
- 作っているとき、電車のどこにかざられるかなと思ながら作りました。楽しいのでまた作りたいです。
- だるまができてうれしかった。かざりをつけるのが楽しかった。電車にかざられてうれしかったよ。



令和4年度の 元吉原えがオン応援団 (ふれあい協力員・ボランティア)を 募集します！！

これまで、保護者や地域の皆様によるボランティア活動のおかげで、子どもたちの安心・安全が守られ、「人・こと・もの」に関わる豊かな学びが実現できており、感謝の思いでいっぱいです。

令和4年度も、また、多くの方々にボランティアとして、元小の応援団になっていただきたく、募集いたします。新たに立ち上げた活動も含め、内容がより分かりやすいようにA3判のちらしを作成しました。後日、申し込み用紙(A4判)とともにお配りしますので、ご協力いただける方は、是非、学校までご提出ください。

また、ちらしや申し込み用紙は、元吉原まちづくりセンターにも置かせていただく予定です。保護者に限らず、地域の方々も募集いたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。